

图 版

旧齋藤氏別邸庭園 大滝・流れ・池泉護岸の詳細調査について

詳細調査の目的

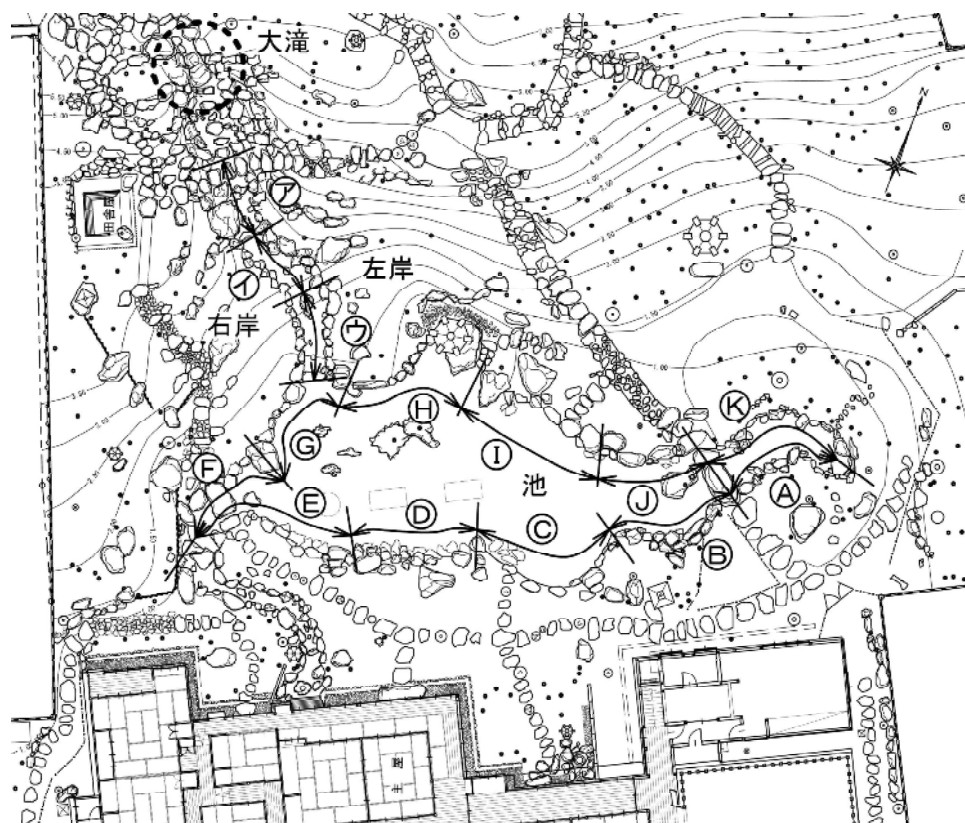
旧齋藤氏別邸庭園の平成 23 年度の調査では、滝石組、池泉護岸等に大きな緩みや損傷は確認されなかった（東京農業大学国際日本庭園研究センター編『旧齋藤家別邸庭園調査報告書』新潟市、2012 年）。しかし、海老ヶ折石で豪快に組まれた大滝や流れの沢飛石周辺には、実生のハゼノキやイロハモミジが、石と石との間から生長していたり、石の節理の割れた箇所根を侵入したりするものがみられた。これらは、経年変化による樹木の生長とともに、石組の緩みや庭石の損傷の直接的な原因となることが予測された。

したがって本調査では、滝石組、流れ、池泉護岸について、石組および陸部の詳細状況を点検・記録し、今後、手立てが必要な箇所を特定するとともに、庭園の保存のための基本資料として、現状の立面図を作成することとした。

調査の方法

調査は 3 次元測量によって地物のデータ取得をおこない、その成果を野帳として用い、実際の地物を現地調査によって照合し、石組や池泉護岸等の破損箇所、実生木の根の侵入状況、陸地部分の空洞化の有無など、現地観察と直接計測をおこなった。

3 次元測量は東京農業大学准教授・國井洋一が担当し、直接計測と所見整理は、同大学助教・栗野隆と、春秋設計工房代表・松本恵樹が担当した。これらの現地調査には、天野公太朗、池谷有人、石井隆行、遠藤貴広、大澤達也、大戸萌、加藤徹、金井大輔、櫻井頌太郎、三浦菜々緒、望月法子、（以上、東京農業大学学生）が参加した。



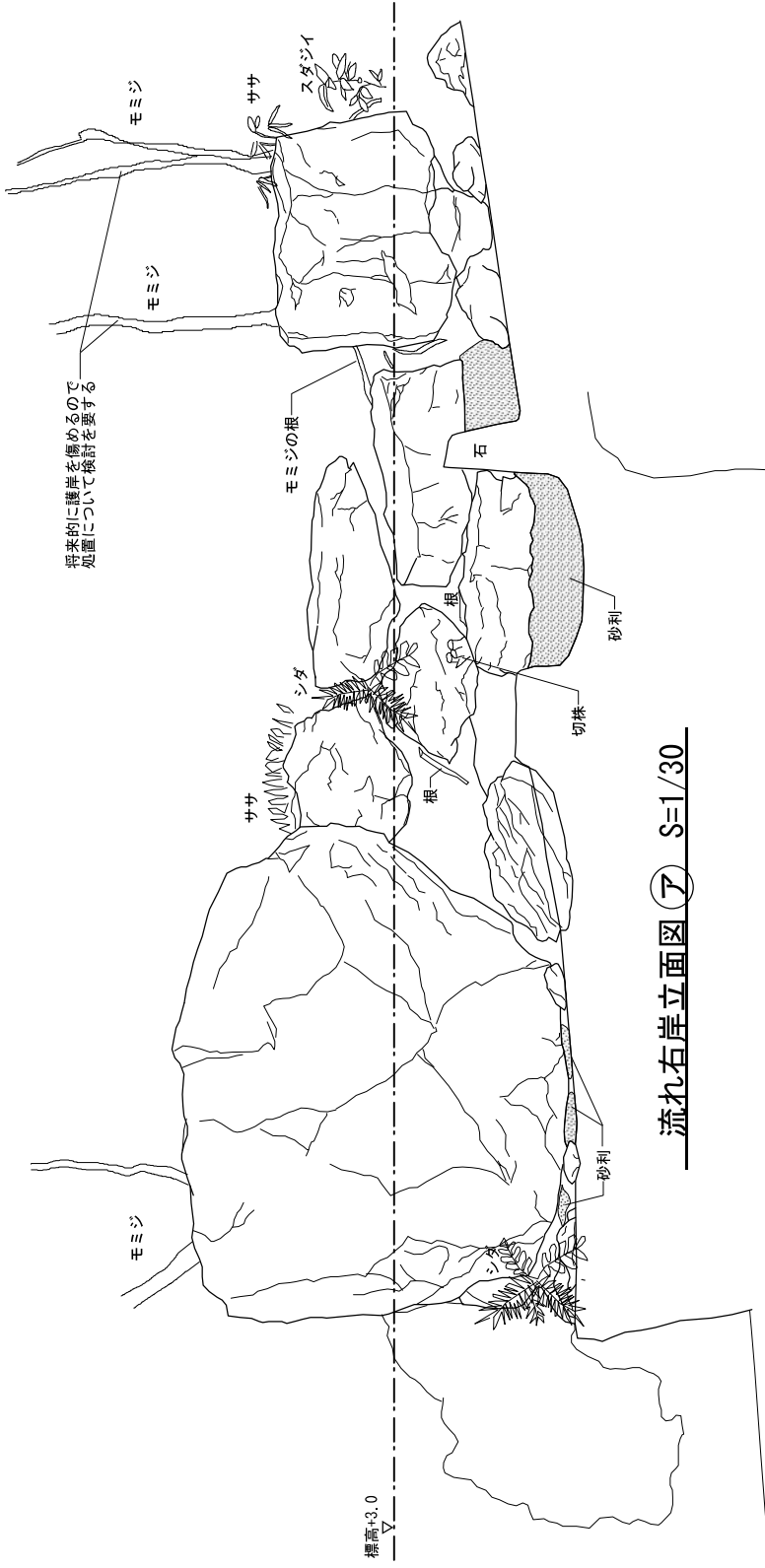
旧齋藤氏別邸庭園立面図キープラン



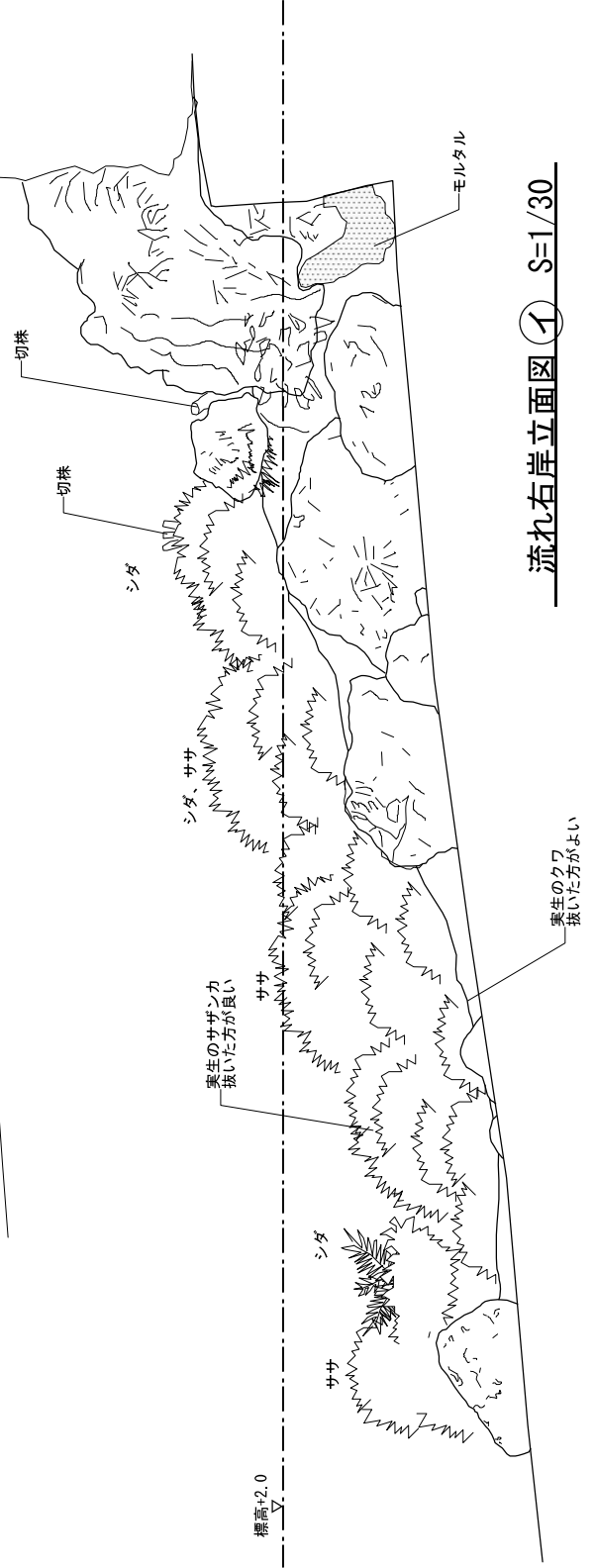
石の間から生えている実生木については石を削る可能性が大きいので早めに撤去した方が良い



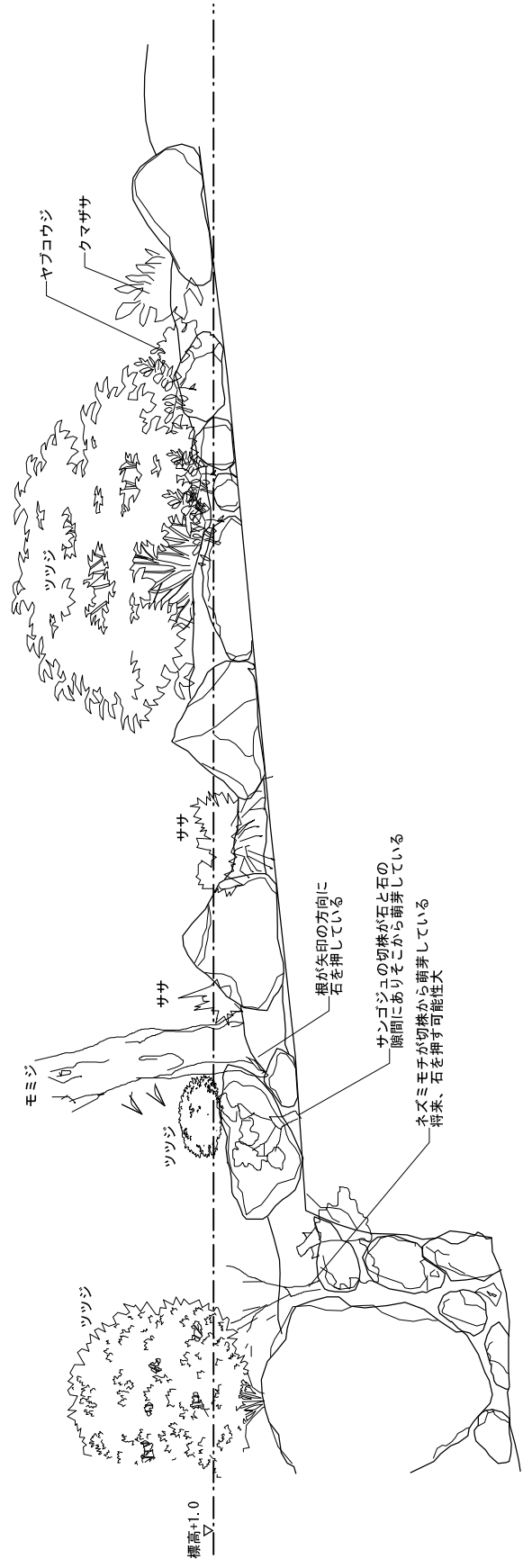


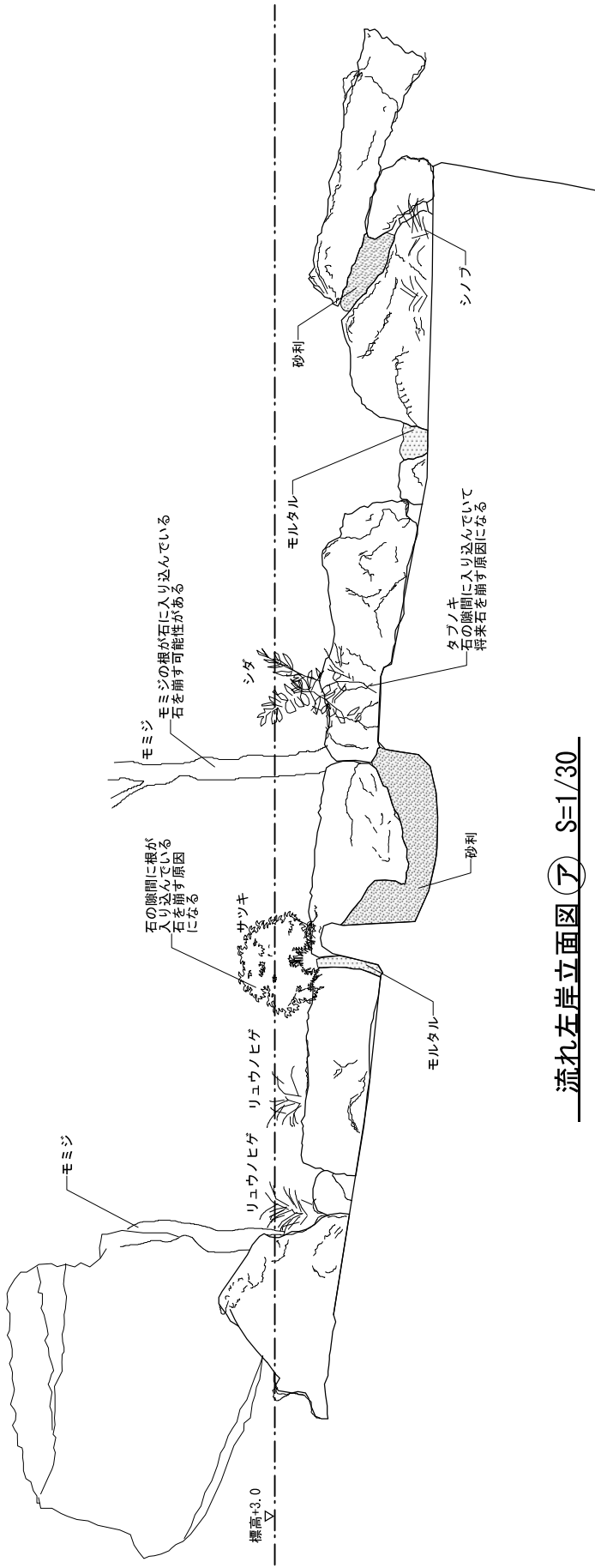


流れ右岸立面図ア S=1/30

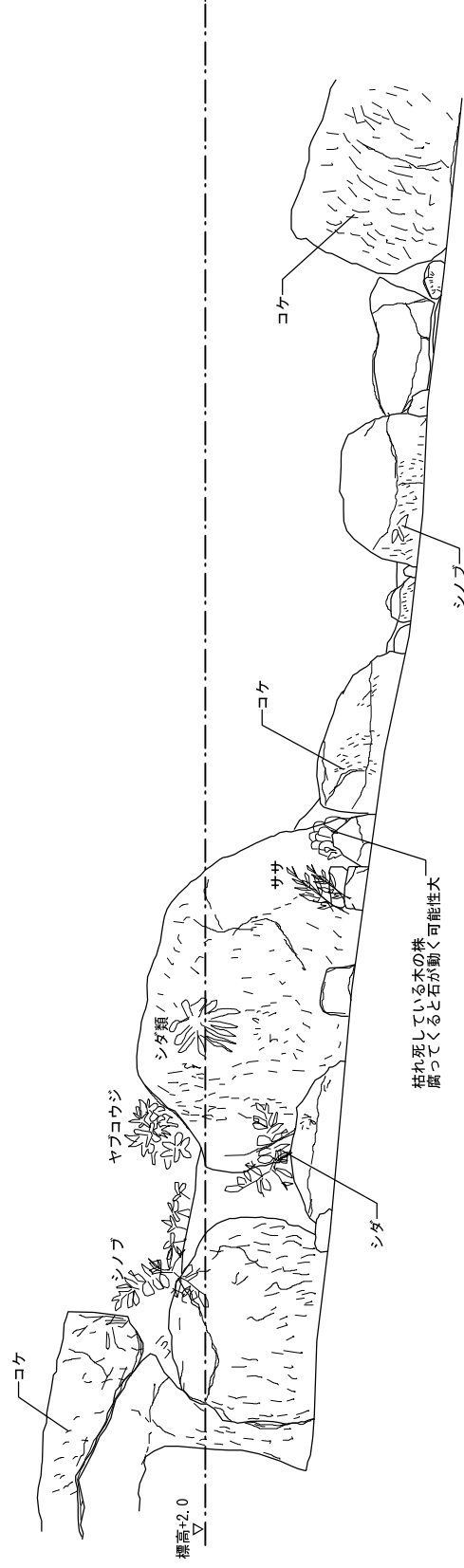


流れ右岸立面図イ S=1/30

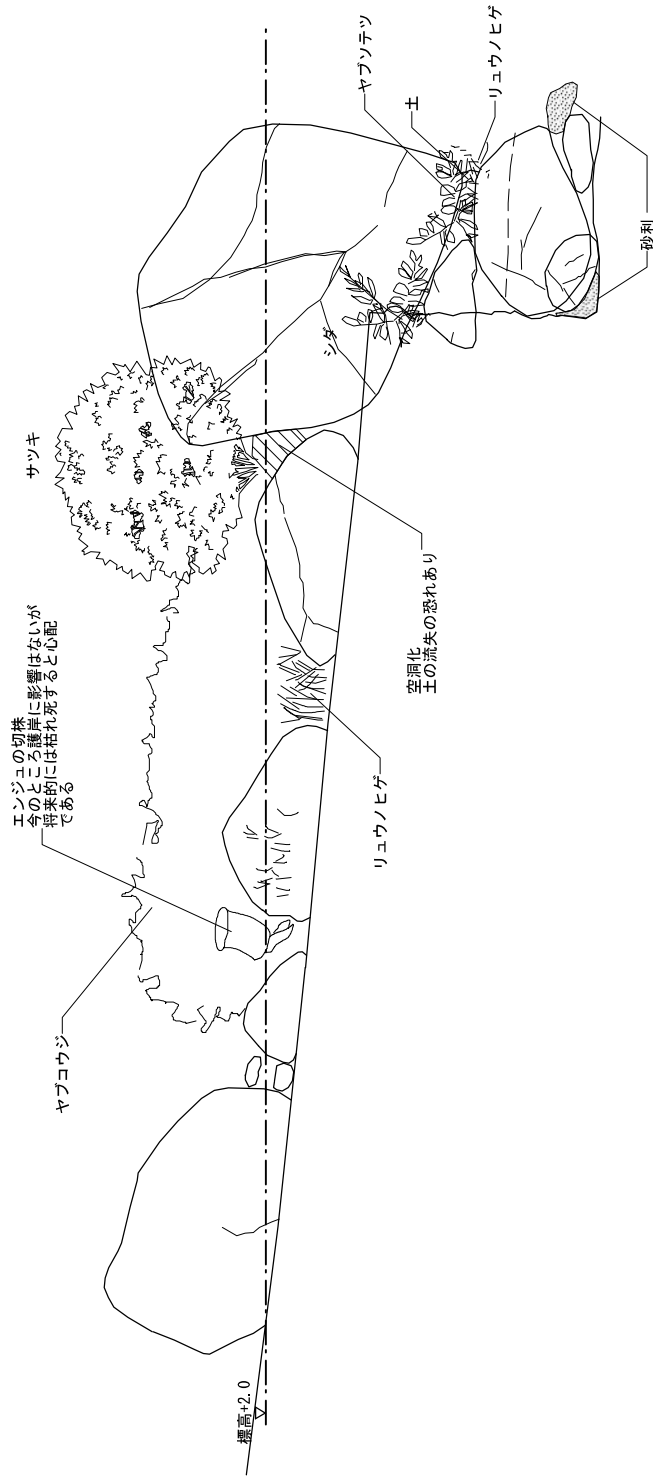


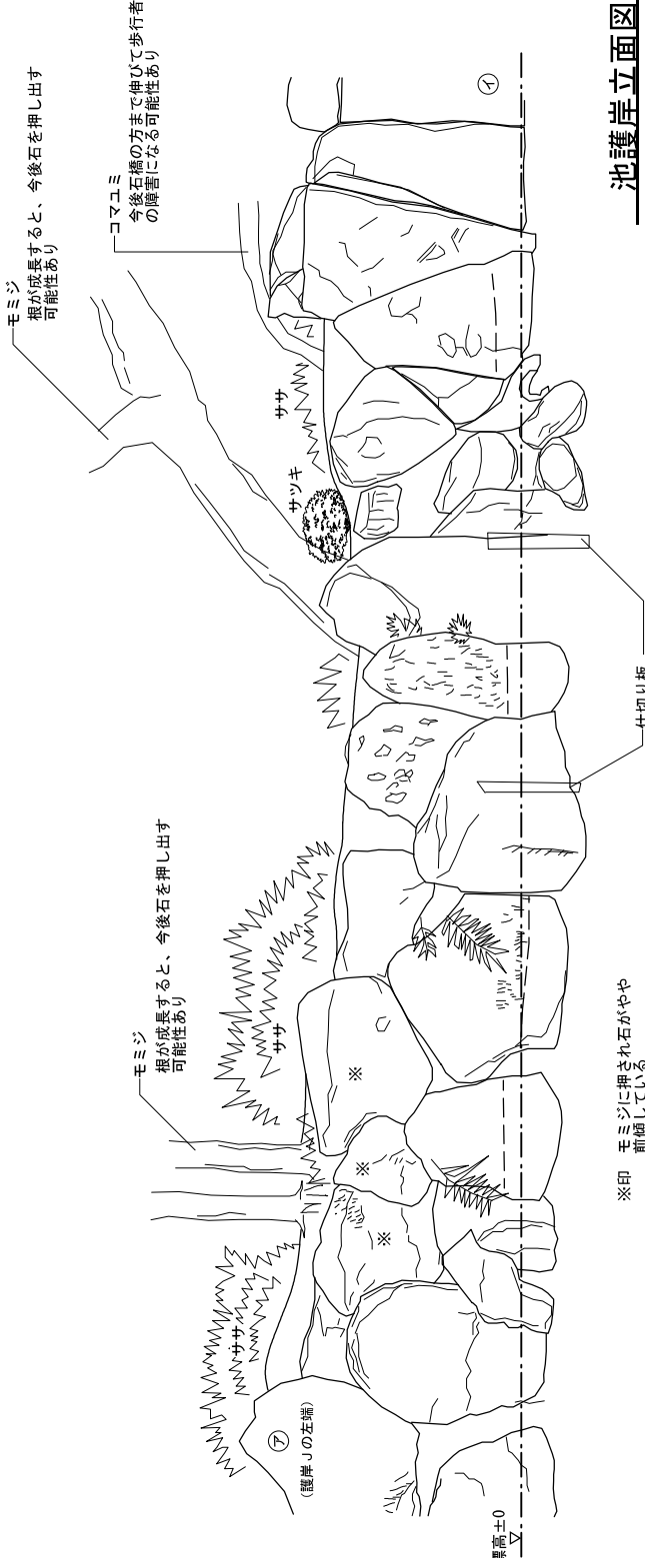


流れ左岸立面図ア S=1/30



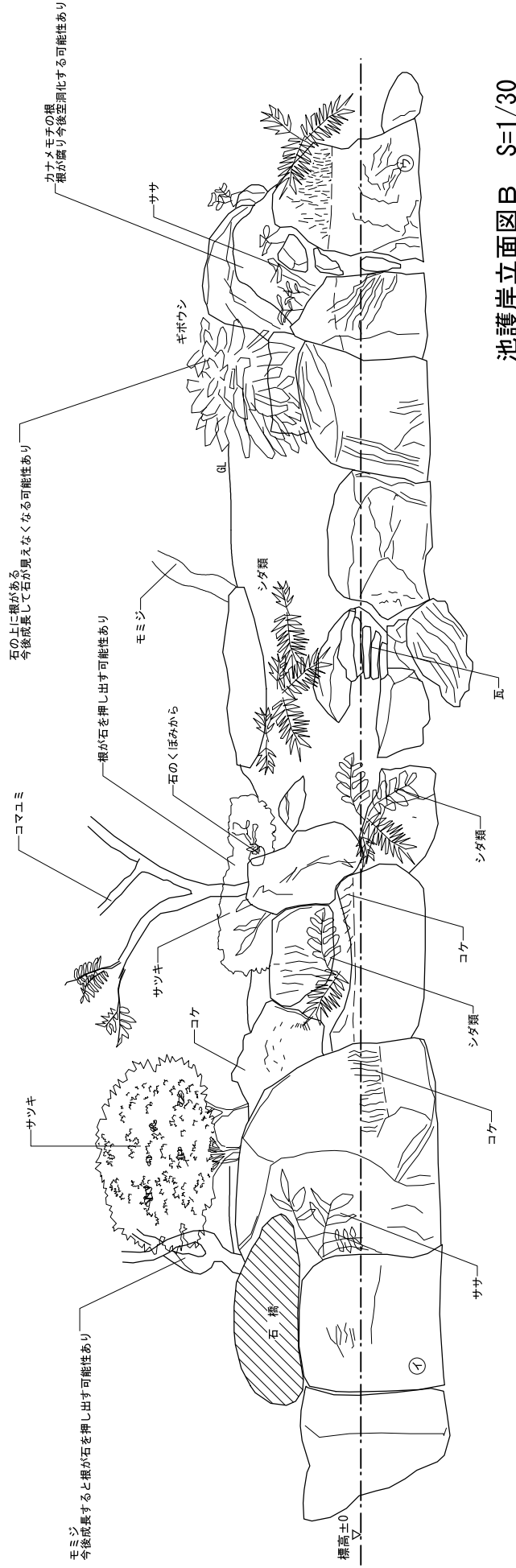
流れ左岸立面図イ S=1/30



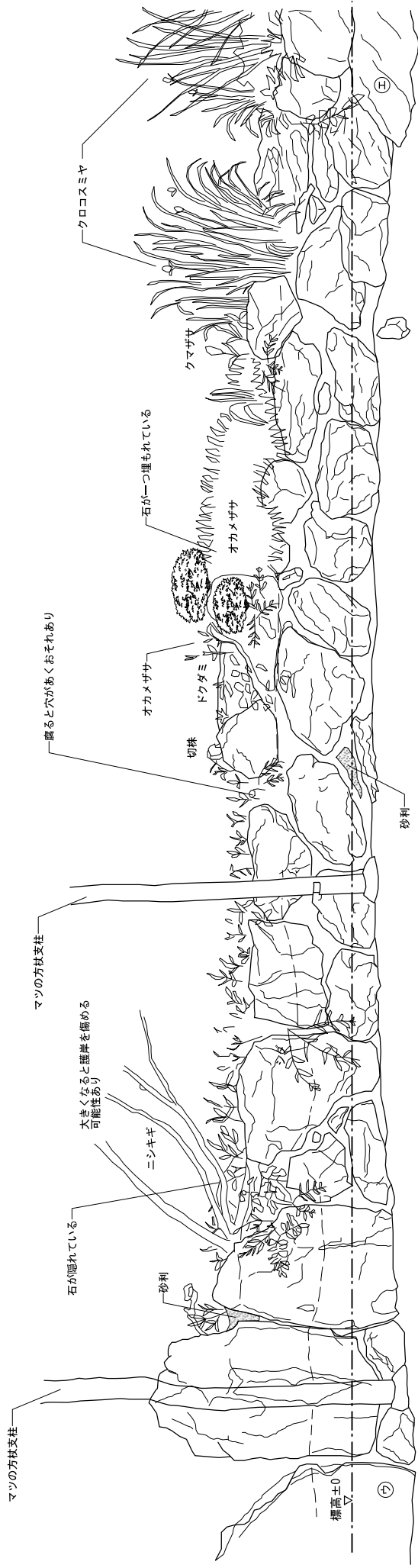


池護岸立面図A S=1/30

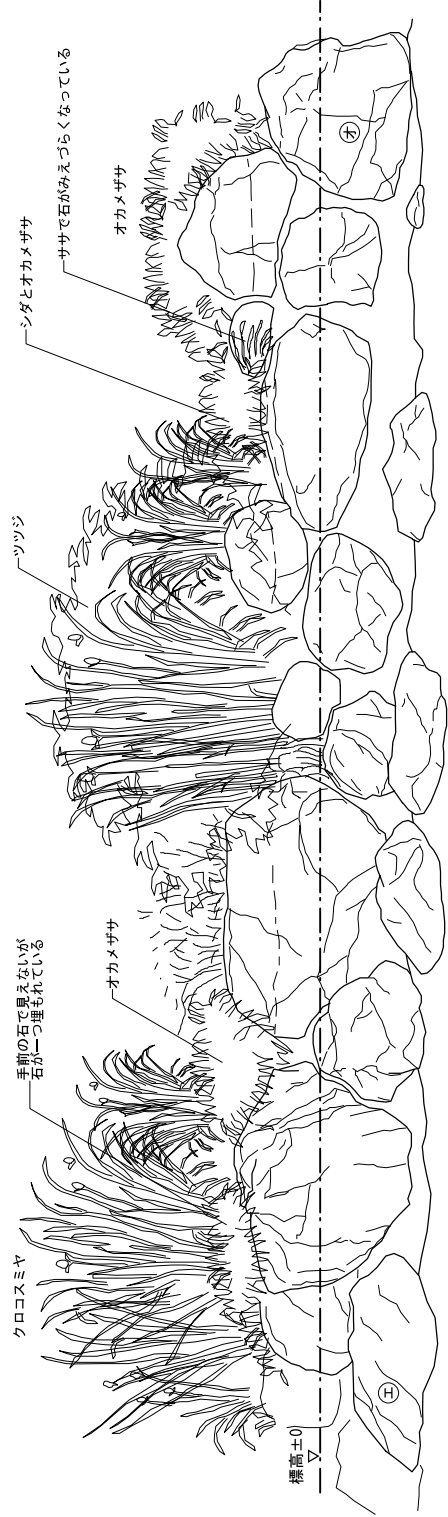
※印 モミジに押され石がやや前傾している



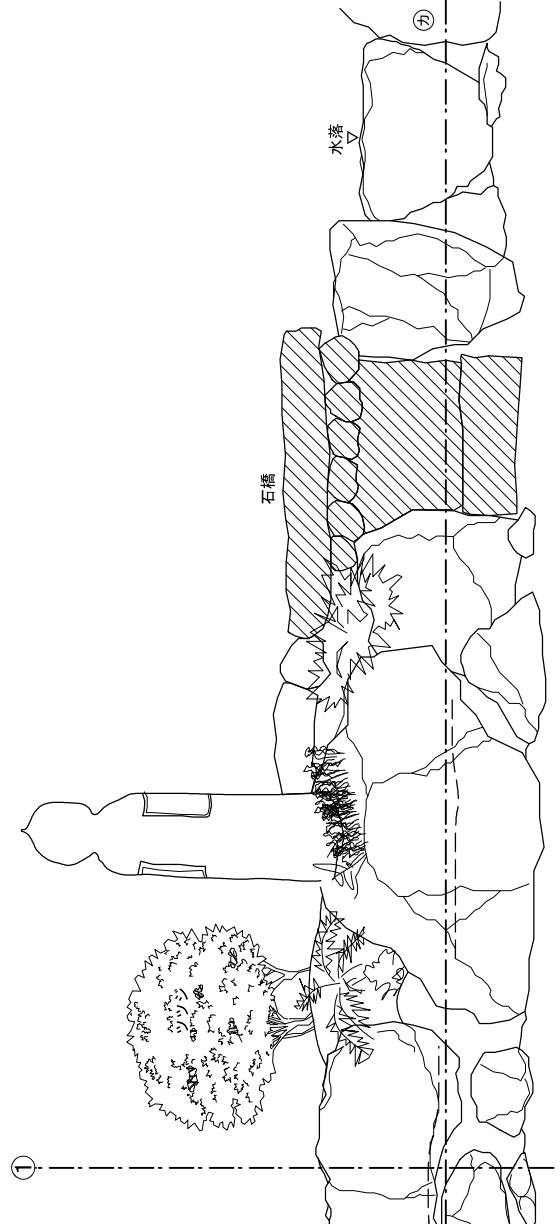
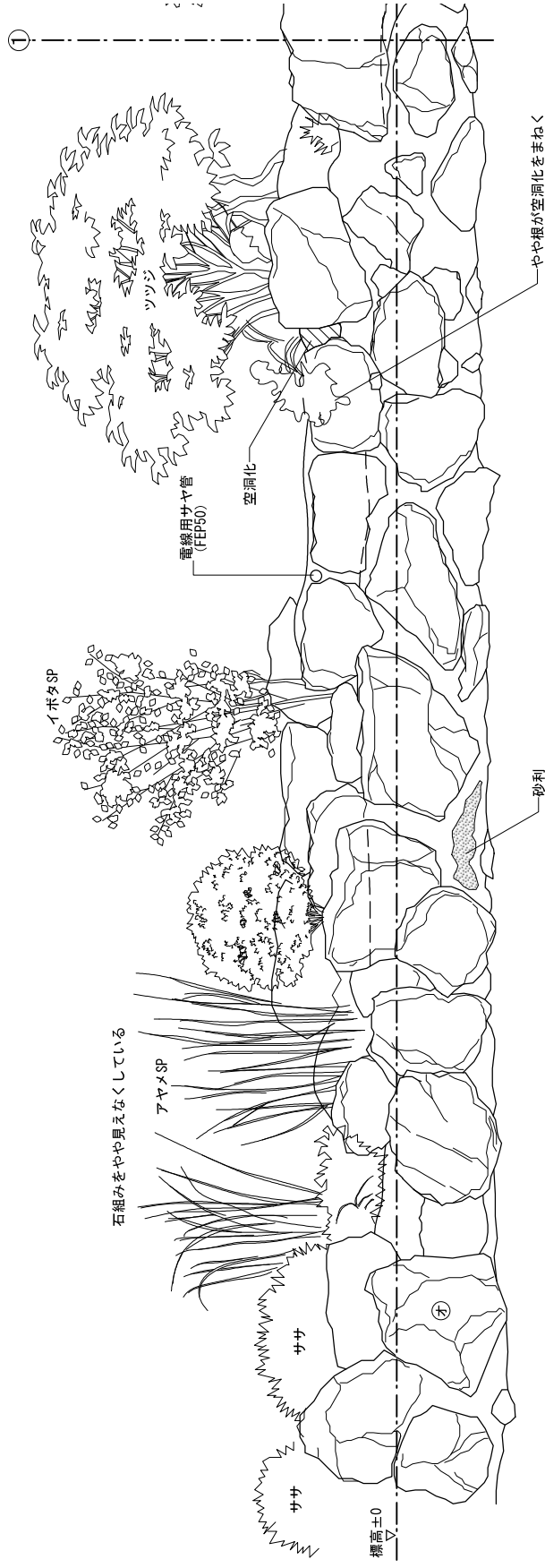
池護岸立面図B S=1/30

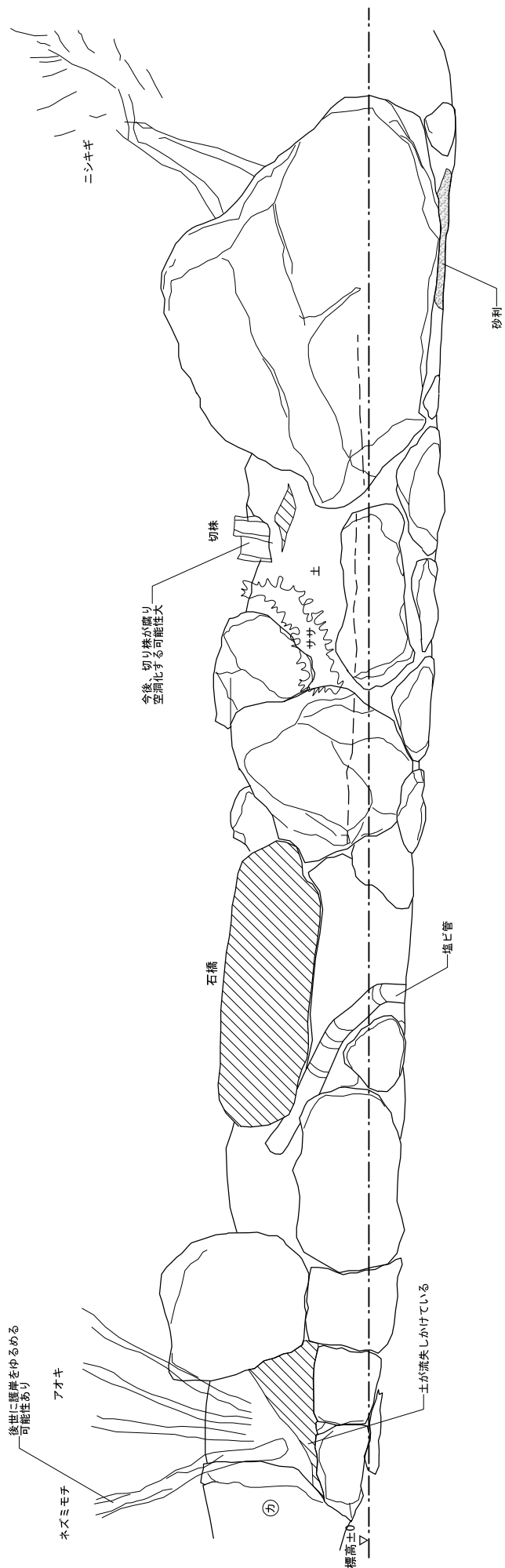


池護岸立面図C S=1/30

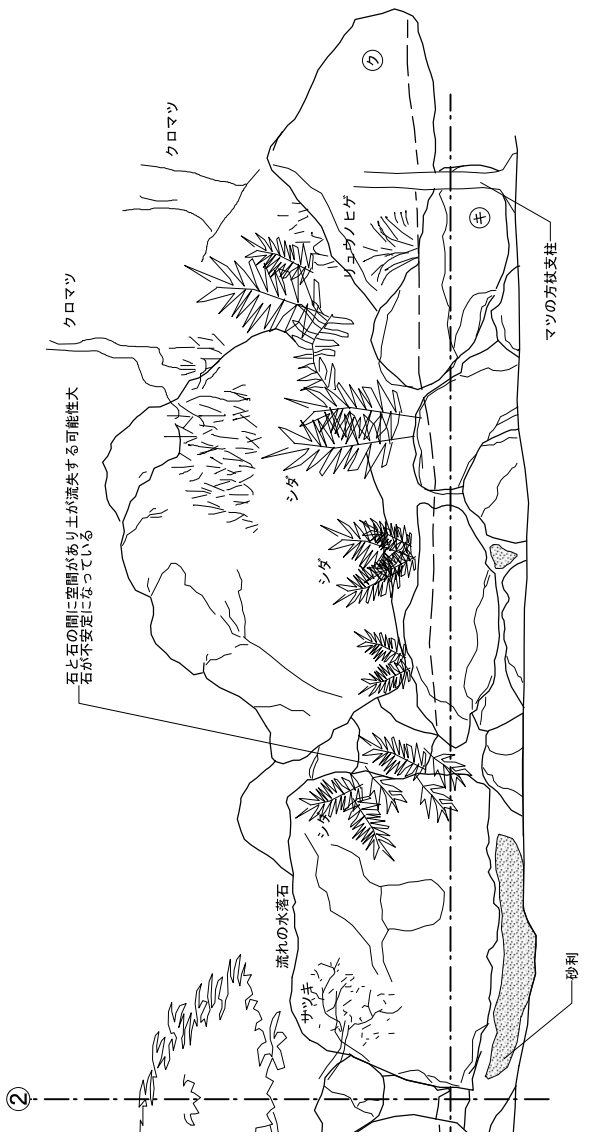
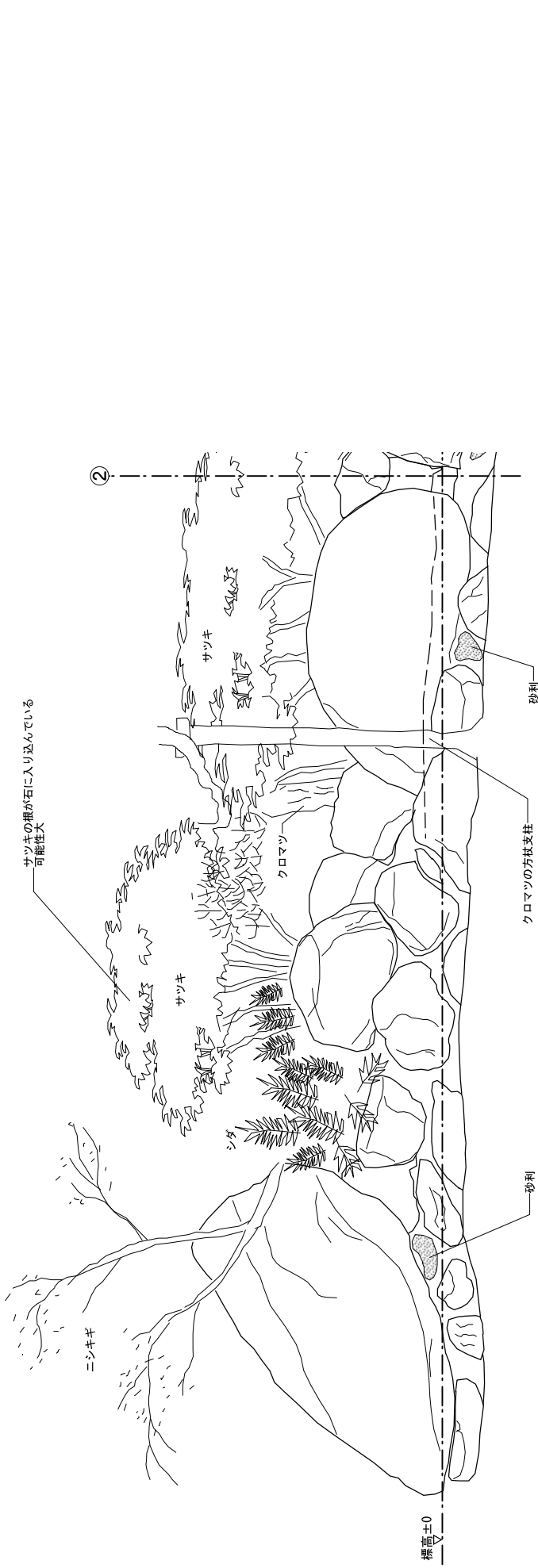


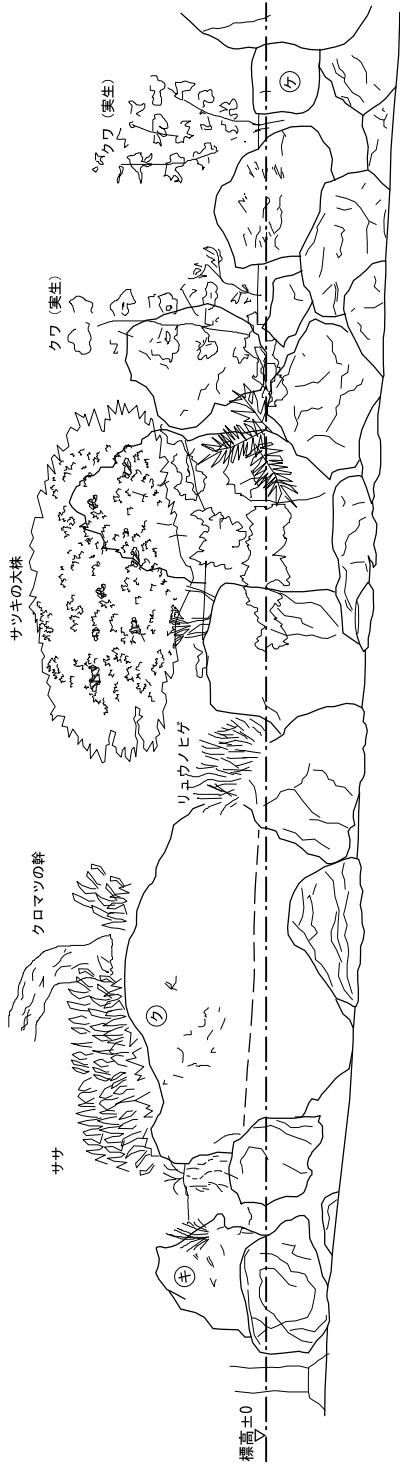
池護岸立面図D S=1/30



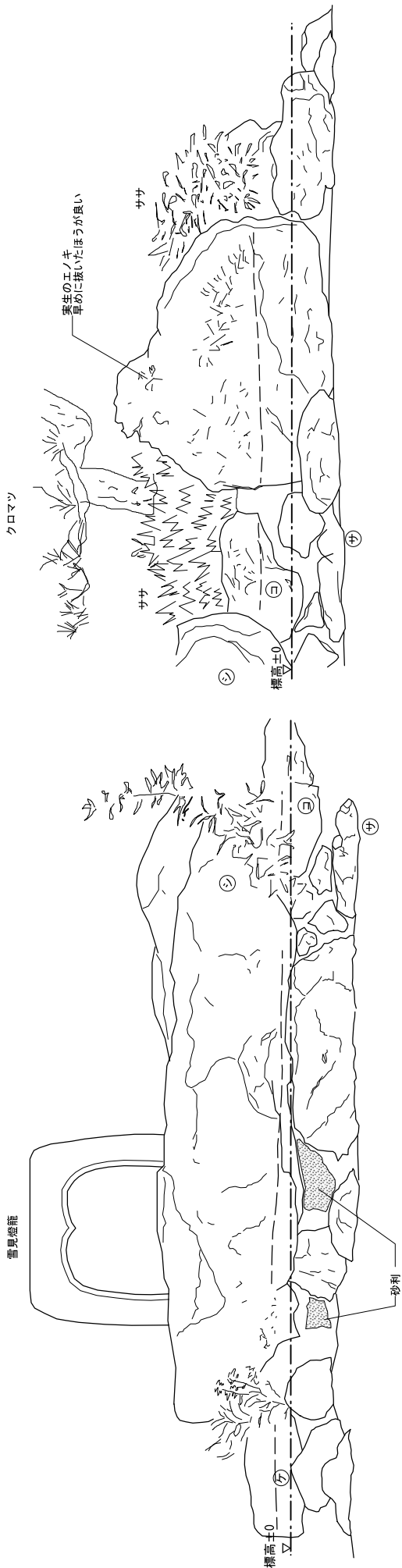


池護岸立面図 F S=1/30



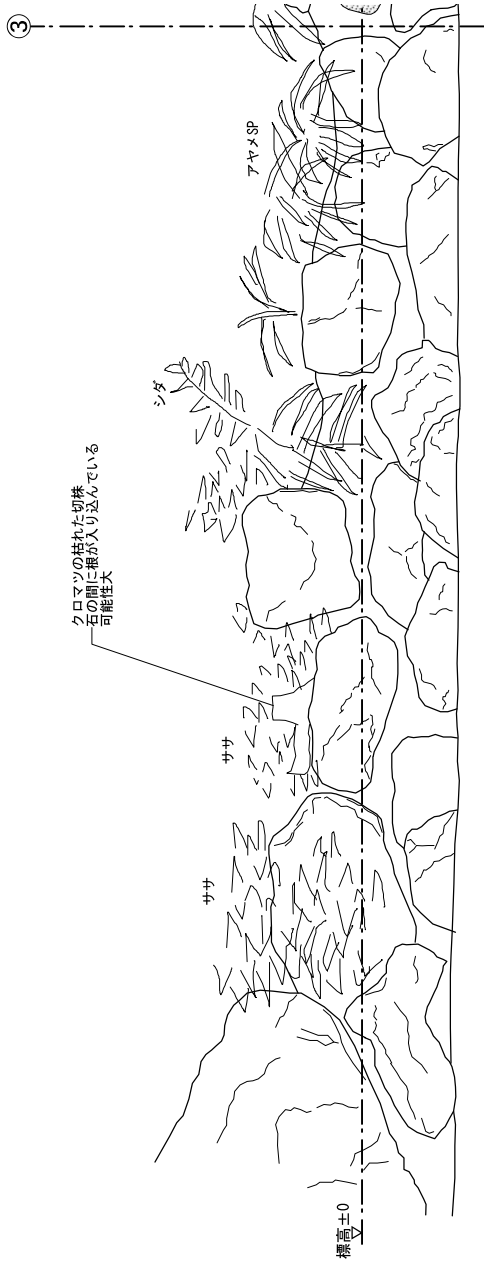


池護岸立面図H-左 S=1/30

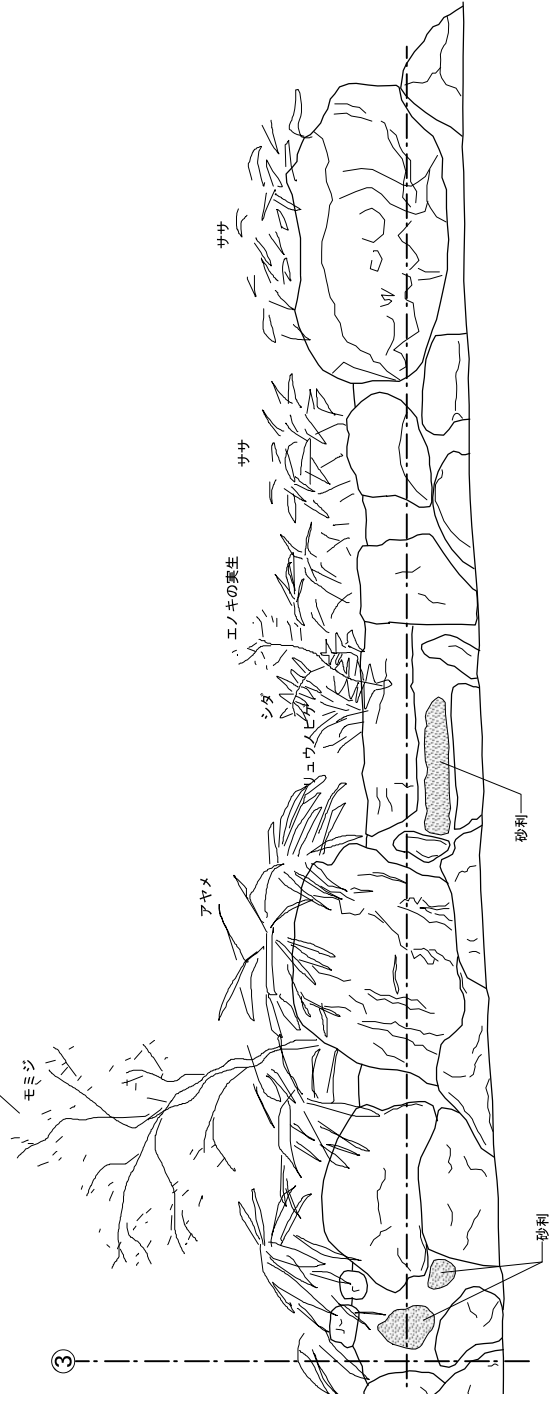


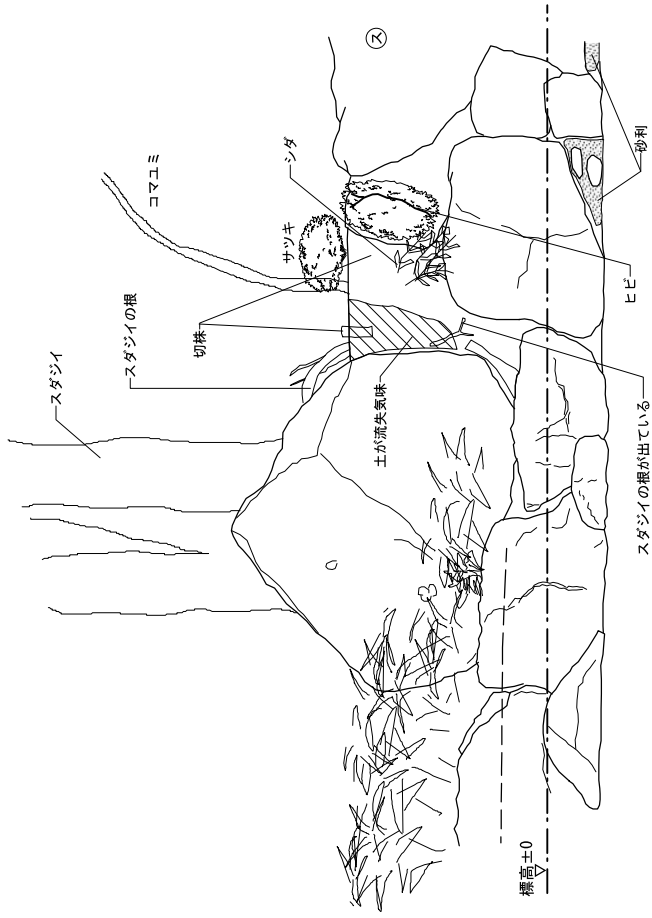
池護岸立面図H-真中 S=1/30

池護岸立面図H-右 S=1/30

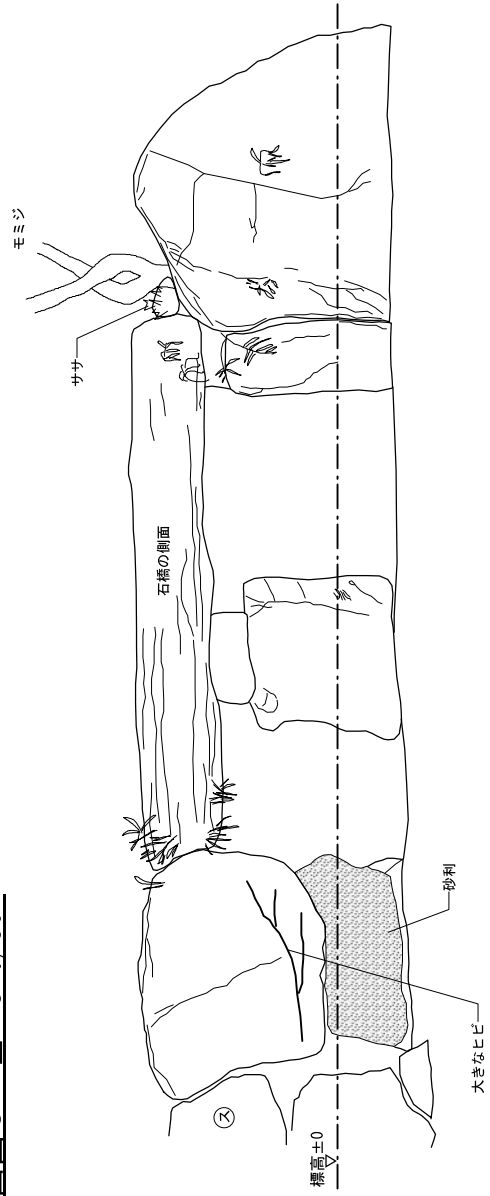


石に根が張り付いていくずれの可能性がある
Aの石の節理に根が入っている

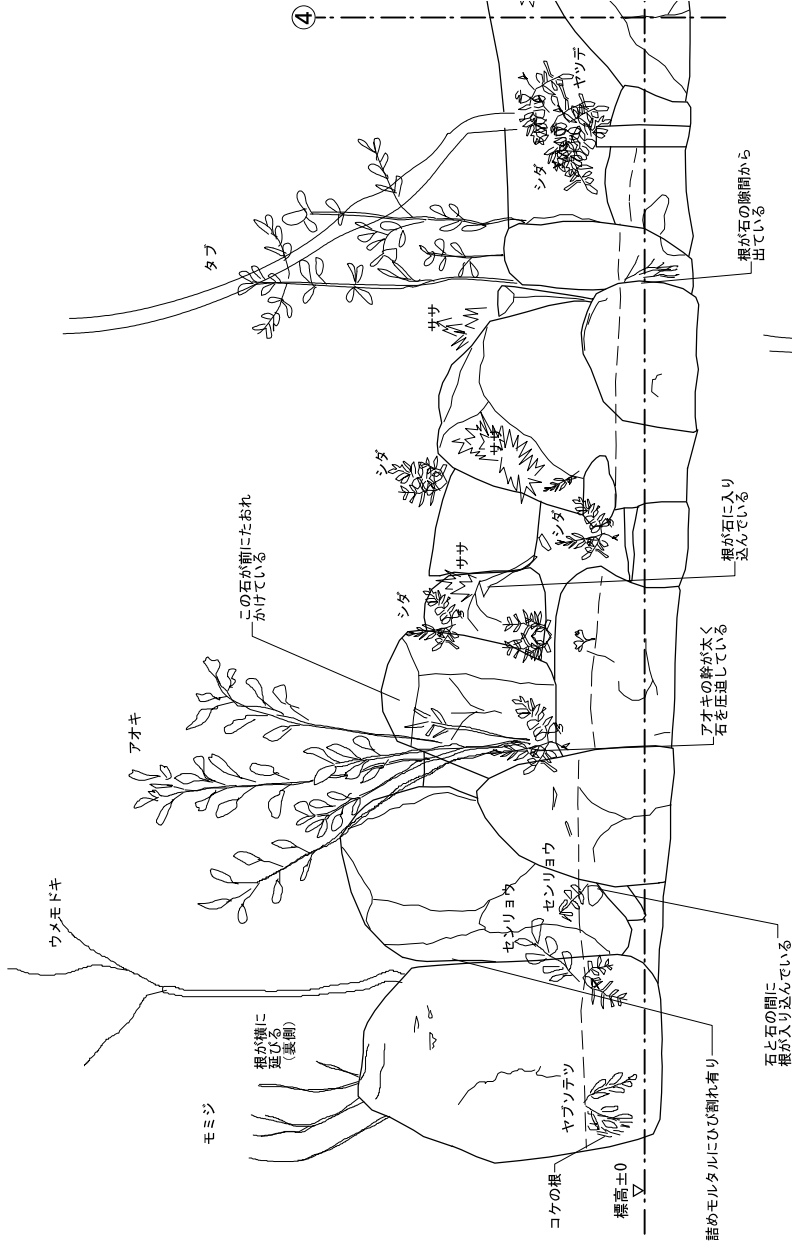




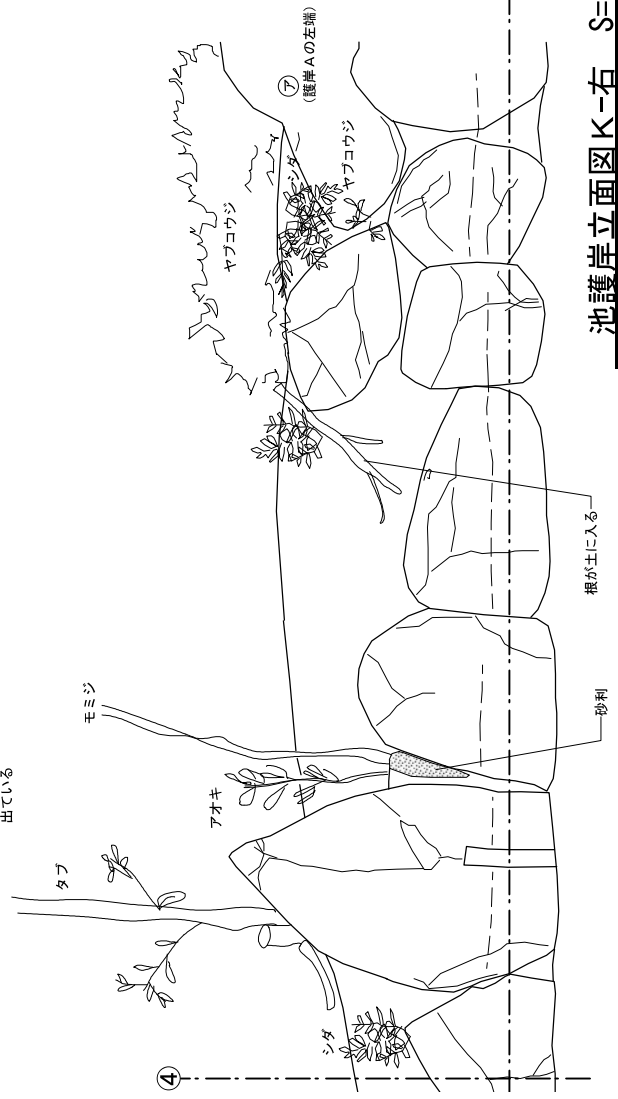
池護岸立面図 J-左 S=1/30



池護岸立面図 J-右 S=1/30



池護岸立面図K-左 S=1/30



池護岸立面図K-右 S=1/30